

SRID キャリア開発

国際開発研究者協会 (SRID: Society of Researchers for International Development) は、国際開発関連機関（国際機関、政府関係機関、NGOs、開発コンサルタント企業等）で働く事を希望する人達のキャリア開発を支援するため、カウンセリング、能力開発向上研修等の**キャリア開発事業**を実施しています。その一環として、キャリア開発事業受講生や国際開発関連機関への就職を目指す人達にキャリア開発に関する情報を提供するため、「SRID キャリア開発」を年2回、3月と9月に配信しています。国連機関、世界銀行（世銀、WB）、アジア開発銀行（アジ銀、ADB）、アフリカ開発銀行（AfDB）、欧州復興開発銀行（EBRD）、国際協力機構（JICA）、開発コンサルタント企業等の国際開発関連機関に勤務経験のある SRID 会員の知見とネットワークを活かし、SRID ならではの情報を発信しています。

第9号では、国際開発分野で働く女性のためのフォーラムの紹介と、2025年9月20日及び21日に実施した国際機関就職希望者のための第5回国際プロフェッショナルコース（IDPC No.5）の報告を掲載しました。

国際開発分野で働く女性のためのフォーラム

国際開発分野で働く女性のためのフォーラムは、女性が抱えるワーク・ライフ・バランス等の課題について女性同士で体験共有・情報交換できる場として2021年に始まりました。ざっくばらんに話しやすい環境にするために女性限定参加となっています。これまでに開催されたフォーラムの概要は以下の通りです。

初回（2021年11月）：「国際開発分野で働く女性の課題とマインドセット構築」と題して、3名の現役及び元国連職員によって国際開発キャリアと私生活の両立、特に結婚・子育てと仕事のワーク・ライフ・バランス及び遠距離恋愛・遠距離結婚、女性が開発現場に行く際の心得、異文化間の女性の立場の違いなどの体験談が共有されました。初回ながら、世界中の国際機関・政府機関・民間企業などから100名以上が参加し、本フォーラムへの大きな期待が感じられました。

第2回（2022年5月）：「開発分野で活躍するための女性の分科会」というタイトルで開催されました。初回の参加者の強い希望に応じて、ワーク・ライフ・バランス及び仕事上の女性ならではの人間関係やネットワークについて分科会に分かれ、参加者がそれぞれの意見や相談事を出し合う、活発な懇談会となりました。

第3回（2022年11月）：「女性がワーク・ライフ・バランスを保ちながら開発分野で活躍するには」と題して、ニューヨークの国連人口基金からマニラのアジア開発銀行に転職され、同行東京事務所長を経て副官房長に就任された児玉氏を講師としてお迎えしました。ニューヨークでお生まれになった双子の子育てをしながら、同氏がいかに国際機関で昇進しながら転職・転勤をこなされてこられたか、また日本勤務も含めたキャリア・パスの中でのご体験やそこから得られた知見をざっくばらんにお話しいただいた後の懇談会となりました。

第4回（2023年11月）：「日本人女性の国際機関キャリア上の人間関係」をテーマに取り上げました。国際機関で長く活躍するためには、適切な自己主張、セルフ・ブランディング、ネットワークづくり等が重要です。上司を立てる、自分を押し殺して全体の調和を重視する、あえて黙っているとといった日本的行動様式が美德とは考えられません。これらの日本社会の体質に染まった働き方を長く続けていると、国際機関で生き残るためのスキルは、相当意識的に取り組まないと身につけません。他方、国際機関であっても東京を拠点とする事務所、あるいは在外公館のように「日本」にフォーカスした機関においては、国際機関の本部の職員や現地関係者との関係で「国際社会で生き残るためのスキル」が必要とされると同時に、「日本社会で良しとされる行動様式」が求められることも多く、そのバランスの取り方が難しいと感じられる場面が多くあると思われます。そうした特殊な環境に置かれている

女性は、どうすれば自分らしく活躍することができるのか、参加者の経験談も踏まえて意見交換がなされました。

2025 年度は、第 5 回目のフォーラムを 10 月 17 日に以下の要領で開催いたしますので、ご関心のある女性の方は是非ご参加ください。

SRID イベント：国際開発分野で働く女性のための オンライン懇談会シリーズ

女性限定参加

テーマ：「開発現場で活躍する女性の
ワーク・ライフ・バランスとサバイバル法」

10 月 17 日(金) 日本時間 20:00 より

開発の現場ではあらゆる開発問題・移民や難民問題の最前線で働かれている方々がいらっしゃいます。そのうち多くは女性の方々ですし、邦人の方も増えてきたと思います。そういう方々は使命感が強く、ご自分のパッションを糧に専門知識や経験を積み重ね、現地や働かれる国際機関・政府機関・NGO などでのサバイバル能力を日々高めていらっしゃるものと存じます。一方、開発現場もさることながら、国際機関本部や地方事務所でも、国連 80 周年に際して、国連史上最大とも考えられるシステム全体にわたる組織・制度改革が行われようとしています。

今までの懇談会でも共有された女性プロフェッショナルのお悩みや課題の中には、パートナーとのキャリア調整、キャリア転職・勤務地移動などをどうするか、出産・子育てのタイミングやサポートの確保等々女性ならではの悩みも多く聞かれました。本部に勤務されている場合でも出張や日常の仕事・家事・子育てをどうやりくりするかは現実的な葛藤だと思います。ここに現在進行中の採用凍結、ポスト削減又は移動、組織改革が加わり、状況は益々厳しいものとなっていくことが予想されます。

今までの懇談会後のアンケートの中で今後取り上げてほしいテーマをお聞きしたところ、やはりワーク・ライフ・バランスについてという回答が一番多くありました。皆様の中には、別に具体的な解決法を求めるのではなく、苦労話を聞いてもらいたい、他の方々はどうされたのか体験談を聞きたい、というお気持ちで参加された方々も結構いらっしゃったと思います。そこで今年の女性フォーラムは、最近の国際開発環境の変化も考慮しながら、皆様の関心の高いテーマを取り上げたいと思います。

参加希望者は下記のリンクから事前登録をしていただき、皆様に安心して活発な交流を行って頂くために、参加者全員によるビデオオンでの参加にご協力ください。参加希望の方は、下記 URL 申込書フォームにてお申し込みください。是非取り上げてもらいたいトピックがあれば、その際にお知らせください。今回又は今後の懇談会企画の参考にさせていただきます。

参加申込は定員（SRID 女性会員を数には入れず）の枠内で先着順にて申込を受け付けます。同一人からの複数回の申込はお控え下さい。又このフォーラムは例年通り**女性限定参加**ですので、興味を持たれた男性の方もおられるかもしれませんが、どうかご理解の程をお願いいたします。

お申し込みはこちらからお願いします：

<https://forms.gle/bxdKEAfv5HPzq2ju6>

<懇談会概要>

- 日時：2025 年 10 月 17 日（金）
日本時間 20 時より（10 分前より入室可能）
- 20:00-20:30：3 名の登壇者によるそれぞれのプレゼン
- 20:30-21:00：登壇者への質疑応答・オープン対談
- 21:00-22:00：参加者も含めて自由討論（分科会）、最後全体のまとめ
- 会場：Zoom（参加者には Zoom の URL をメールします）
- 定員：約 60 名（多少猶予あり）
- 参加費：無料

懇談会登壇者

- **森田宏子**（SRID 会員）：UNDP ハイチ事務所勤務経験後、3 人の子育てをしながら国連本部で UNCSTD、UNDESA 勤務の関係で数多くの途上国へ出張
- **大場ありさ**：小学校の教員経験後、セーブザチルドレン（NGO）の職員としてモンゴルへ。のちに JPO で UNICEF ザンビア勤務、現在は UNICEF 太平洋事務所

(フィジー)で教育担当官として勤務。1 児の子持ち。
幼児を連れて現在まで海外出張を 5 回、フィジー国内出張を 3 回こなした。

- **高橋真子** (SRID 会員) : 元ジャーナリスト、出産後修士を取得し、アフリカのニジェール UNDP 事務所に数ヶ月単身にて勤務後、現在は UNWomen 日本事務所勤務。2 児の子持ち。

本懇談会に関するお問い合わせは、SRID 会員森田宏子 (hiroko.morita.lou@gmail.com) にご連絡ください。

(2024 年 7 月 SRID ジャーナル第 27 号 **SRID キャリア開発事業の紹介**と女性フォーラム開催案内より引用)

IDPC No. 5 報告

2025 年 9 月 20 日及び 21 日に、国連諸機関及び国際開発金融機関 (MDBs) での就業を目指す人達を対象とした第 5 回国際開発プロフェッショナルコース (International Development Professional Course (IDPC) No. 5) を、英語を使用言語として、オンライン方式で実施しました。IDPC No. 5 の目的は、受講生に国際機関の枠組みとその基本的業務、雇用制度等を解説し、受講生の国際機関への就業を支援するものです。講師は、ほぼ全員が国際機関の現役もしくは退職者です。IDPC No. 5 においては世界銀行及びアフリカ開発銀行から、HR セッションへご参加いただく等、

多大なご支援をいただきました。

受講者のプロフィール

IDPC No. 5 は 19 名が受講しました。IDPC No. 4 に続き、日本人以外の受講者も受け入れたことから、海外の 9 カ国から 11 名が参加しました。内訳は、ナイジェリアから 3 名、ケニア、エチオピア、ガーナ、バングラデシュ、ミャンマー、ブラジル、カザフスタン、ウクライナから各 1 名でした。日本人以外の受講者の参加は、文化的背景の異なる多国籍の職員と英語で仕事をする国際機関の疑似職場環境を創り出すことが出来た事、開発途上国の視点を議論に反映することが出来た事等、大きな効果がありました。日本人参加者も前回の 6 名から 8 名に増加し、理想的な日本人、外国人比率 50:50 に近づきました。

学部 4 年生 1 名を除き多くの受講者が修士号を持つか、修士課程に在籍中でした。また 1 人が既に博士号を持ち、2 人が取得中でした。日本人受講者の中には既に国連機関、政府機関、開発コンサルタント企業における実務経験のある受講者が大半でした。また、日本人 1 名の研究者が研究作業の一環として開発の知識を深めるために参加したことは、これまでの IDPC には見られなかったことです。

質問のレベルを見ても開発問題に対する理解と関心が高いことが伺われ、大変優秀かつ経験豊かな受講者が集まりました。国際機関への就職が期待されます。

コース概要

初日は、現在の国際的かつ複合的な危機から生ずる開発課題を理解し、国際機関がそのような課題にどのように取り組んでいるかについて、グローバルな視点から解説しました。このセッションの後、民間セクターを通じて発展途上国の開発を促進する IFC の活動を紹介しました。午後には、UNDP と世界銀行のそれぞれの国際機関と受益国政府により、国別パートナーシップ枠組みがどのように策定されるかについての講義が行われ、UN のカンボジアと世界銀行のスリランカの国別パートナーシップのケースが解説され、議論が行われました。

二日目のセッションは、世銀、ADB、AfDB 及び国連の現役または退職者の人事関連の専門家から各国国際機関の採用制度に関する説明を行った後、受講者の 1 人に国際機関での模擬面接を体験させ、アドバイスを与えました。

その後、インドの Tamil Nadu Urban Development Fund のケースを Workshop で取り上げ、世銀における Project Design を受講者に経験してもらい、持続可能な Project を形成する上での重要点、また、MDBs の役割を議論しました。次のセッションでは、紛争国、地域における世銀と UN Group の協力について、アフリカやアジアの実際のケースに基づき講義と議論が行われました。これらの講義に続き、世界各地から参加した UN 諸機関及び MDB のスタッフ (UNDP、UNOOSA 各 1 名、ADB、AIIB 各 1 名) との Q&A セッションを行い、

Concluding Session で最後の Advice を与え、コースを終了しました。

受講生の評価

17 名から得られた回答を紹介します。IDPC 全体の評価については、5 段階評価の 5 と評価した受講生が 52.9% (9 名)、4 の評価が 47.1% (8 名) と、平均 4.53 の高い評価を得ました。それぞれの講義内容については全て 4 以上と、まんべんなく高い評価でした。受講者の関心が強い人事セッション及び現役スタッフとの Q&A セッションは言うまでもなく、世界情勢の分析と国際機関の役割りの概説、開発途上国での民間企業の活動を支援する IFG の役割に関する講義から、受講生は色々な示唆を受けたようです。

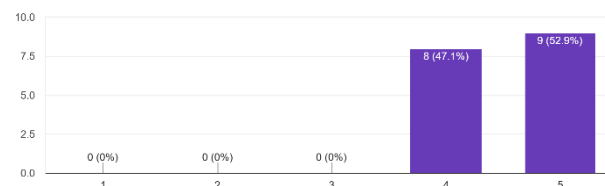
「国別パートナーシップ」の作成を Manage した専門家が具体的な国のケースを取り上げ、活発な議論が行われ、それぞれの国際機関業務の枠組みとなる「国別パートナーシップ」について理解を深める目的が達成できました。

「国別パートナーシップ」の理解を深めた上で、特定のセクターにおける具体的なプロジェクトのデザインを「国別パートナーシップ」の重点戦略を通じてどのように実現していくか、小グループで Workshop 形式による議論をおこなったため、受講者は、あたかも開発の現場にいる様な状況を経験し、大きな学びがあったようです。

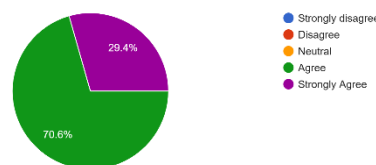
世界中で戦争や紛争が生じている国や地域が増加しているため、UN や世銀の平和構築活動には、受講者から大きな関心が寄せられました。UN 及び世銀の両国際機関において、平和構築活動に長年従事した講師が、実体験を含めて、平和構築活動の意義やチャレンジを解説し、有意義な議論が行われました。

個別コメントについては、受講者の多様な経験・背景を反映して様々な意見が出され、今後の IDPC の企画・実施に大変参考となりました。

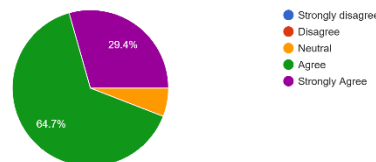
How do you evaluate the course overall
17 responses



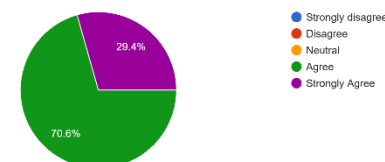
Learning objectives were clearly stated
17 responses



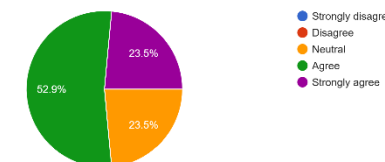
Contents of the course were relevant for the learning objectives
17 responses



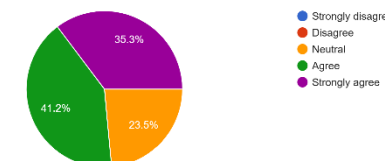
Course materials were relevant and useful
17 responses



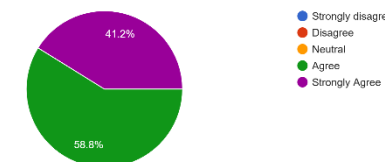
The volume of reading materials before the sessions was adequate
17 responses



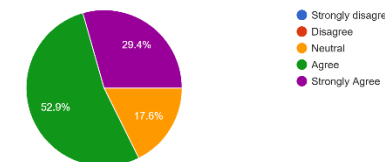
Participants were encouraged to take part in the discussions
17 responses



Lecturers were effective
17 responses



Length of the course was sufficient
17 responses



受講生のコメント

- ・Overall, the course strengthened my knowledge of international development processes and deepened my appreciation for the importance of effective coordination between IDOs and partner countries. I am confident that the insights gained will positively inform my academic work, professional engagements, and contributions to development projects in the future.
- ・Although I participated without having sufficient English proficiency, expertise in development, or knowledge about the UN and the World Bank, I was able to gain a wealth of knowledge and valuable perspectives for my future career. I would like to express my sincere gratitude to all the lecturers and participants. Thank you very much.
- ・Background information on the establishment of IDO after WWII was interesting for gaining a better understanding of objectives of these organizations.
- ・I was able to gain basic knowledge about the United Nations and the World Bank, as well as insights into the perspectives of the people working there.

- ・I am really interested in finance-related work in the IDOs, such as the World Bank, IFC, and ADB. So the real case of the WB was very fresh and interesting.
- ・I struggled to perform to my potential in group discussion because I didn't have enough opportunities for group discussions, especially with those from other countries. However, these experiences in this course inspired me greatly and gave me space to grow. I want to improve my English and both my academic and soft skills more and more. In addition, I'm happy to have built a network with current staff of the IDOs. I truly appreciate it.
- ・I'm delighted that you issued the certification of this course, which can be added to my CV.

今後のIDPCのコース設計に関する提案

- ・This is a great opportunity for us to learn more about working with international development organizations. If you could include the following: Practical Exercises - Including simulation exercises where participants design a mini-Country Partnership Framework would enhance hands-on understanding of the process. More Time for Discussion - Extending group discussions and Q&A sessions would allow

participants to engage more actively and exchange diverse perspectives.

- ・If time permits, I think having an ice-breaking session before the group work would be helpful.
- ・The case study areas are Asia oriented, I suggest that because African participants are many, so it would be better to include African cases as well.
- ・Ensuring diversity of facilitators.

個別カウンセリング

希望する受講生に対し10月に、個別のキャリア・カウンセリングを実施します。カウンセリングは、受講者の専門分野・経験と相談内容を考慮し、もっとも適切と思われるカウンセラーを中心にSRIDキャリア開発事業(Career Development Program、CDP)登録講師の中から選出して実施いたします。(鈴木博明、IDPC No.5 報告書からの抜粋)

Tool Box : 生成AI 画像作成機能

生成AI 画像作成機能は、人工知能(AI)を使ってテキストや他のデータから画像を自動的に生成する技術です。ユーザーが「夕焼けの海辺に立つ猫」などの文

章を入力すると、AI がその内容をもとにリアルな画像やイラストを作成します。代表的なツールには、OpenAI の DALL・E や、Midjourney、Stable Diffusion などがあります。

この技術は、広告・デザイン・ゲーム開発・教育など幅広い分野で活用されています。絵を描くスキルがなくても、誰でも簡単に視覚的なコンテンツを作れる点が大きな魅力です。本紙巻末のイチローのイラストレーションも生成 AI で作成したものです。私は、出版する論文等に挿入するイラストを作成する時に使用しています。ほかの人の作品や写真を使用する際には、著作権の関係から許可を入手したり、場合によっては、使用料が必要となったりするので、自分でコンテンツを作成できる生成 AI ツールの活用は、時間と費用の節約につながります。

一方で、著作権やフェイク画像の問題も指摘されており、倫理的な議論も進んでおり、クリエイティブと責任ある利用のバランスが重要になるでしょう。(鈴木博明)

SRID キャリア開発カウンセリング

SRID では、留学準備、進路相談、国際機関への応募方法、CV の書き方、インタビューの受け方、要求される能力、採用後のキャリア開発等について助言する等の

無料カウンセリングを行っています。SRID ホームページの[申込フォーム](#)からお申し込み下さい。

入会のお誘い

SRID では新規会員を募集しています。興味のある方は「[入会のお誘い](#)」をご覧ください。

編集後記

同郷で性が同じであることもあり、イチロー（鈴木一郎）の大ファンです。世銀時代に中国政府の財務省スタッフ向けに、シアトルで Sustainable City の Study Tour を行いました。中華料理店での晚餐を早々と終え、ご一行をホテルに送り届け、「明日もきついスケジュールなので、今晚は早くお休みください」と寝かしつけ、ホテルを抜け出し、Mariners—Astros 戦の後半を見に行ったこともありました。

そのイチローが、初の日本人選手としてアメリカ野球殿堂入りを果たした事をお祝いする行事で行った挨拶の中で、要約するとこんな事を言っています。「子どもの頃、私は野球選手になることを夢見ていました。夢を見ることは楽しい。でも、大人になると、夢を見るだけでは十分ではありません。夢を叶えるためには、

具体的な目標を立てそれに向かって、工程表を作り、邁進する必要があります、これは忍耐と努力を必要とするものです。」さすが、イチロー！IDPC No.5 の Closing Remarks に引用させていただきました。

(鈴木博明 SRID キャリア開発事業運営委員長、「SRID キャリア開発」編集部)



This illustration was created and presented by Dr. Kazumi Yamaoka, Chief Editor of the *SRID Journal*, with the assistance of ChatGPT.